

### 第三章 研究開発の経緯と内容

#### A スーパーサイエンスハイスクール文化講演会

##### (1) 研究開発の課題（研究概要）

卓越した業績を残した科学者による講演会を実施して、生徒の意識・意欲の向上に役立てようとするのが本事業の目的である。また、地域の中学校の生徒・教員の代表者や高校教員が参加することで、一宮高校SSHについての地域理解を促進することも目的としている。

##### (2) 研究開発の経緯

アントレプレナーシップの育成を目的に講師に依頼した。

##### (3) 研究開発の内容

###### ア 仮説（ねらい、目標）

生徒の視野を広げるとともに科学への憧れや意欲・関心を高めることができる。

###### イ 研究の内容・方法

対象 本校 生徒 1080名 教員 50名  
中学校 生徒 45名 教員 17名  
連携校 教員 19名 保護者 121名

日時場所 7月3日(木) 一宮市民会館大ホール

###### 実施内容

講演 演題 「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

講師 株式会社 ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 先生

内容 幼少期から起業、現在に至るまでのお話を頂きました。起業して苦労する中で成功を収めた経験から一番を目指すことの大切さや、一番を目指す上で重要なのは粘り強く挑戦すること。「試行回数×適切な科学技術>奇跡」であり努力に勝るものは無い。失敗の連続の中で心の支えになるものは「メンター」と「アンカー」（メンターとのストーリーを思い出させてくれる品）であったこと。最後に、これからの若い世代に向けて熱いメッセージを頂きました。また、講演会後には、出雲先生と直接話をしたい生徒が集まり、熱心な質疑応答が行われました。

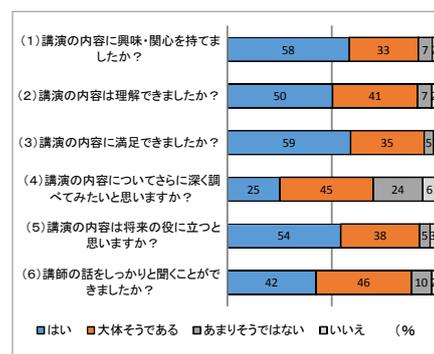


講演会の様子

##### ウ 検証（成果と反省）



懇談会の質疑応答の様子



###### 生徒の感想から

- ・これから新しいことに挑戦する上で諦めないことの大切さを教えてもらうことができました。
- ・成功する可能性が1%であっても459回やれば99%になるという言葉に前向きな気持ちになりました。私も沢山努力をして自分の可能性を広げたいと思います。

熱意ある講演で生徒のやる気を後押しする内容であった。アンケートからは生徒は興味・関心を持ってよく聞き満足度も高かったことが分かる。